

救い主の降誕

2024年12月15日

ミカ書 5章2節
ルカの福音書 2章1～20節

序：イエス・キリスト降誕に関する預言

- (1)処女から生まれる（父は神）
男の子（人間の赤ん坊と同じく月満ちるまで母の胎内で育つ）
母マリアの救い主
- (2)アブラハムの子孫、ダビデの子孫（しかもアブラハム、ダビデのメシア）
一人のイスラエル人として、来られる
- (3)誕生する地はユダのエフラテのベツレヘム
ベツレヘムはダビデの出身地（∴ダビデの町と呼ばれた）

今朝は(3)の預言の成就をみことばによって確認したい

I. 神は歴史の主

- (1)世の支配者・権力者を立て、用いてご計画を遂行される
イエス・キリストの降誕時：ローマ帝国の皇帝はアウグストゥス
シリアの総督はキリニウス
- (2)皇帝が発布した「ローマ帝国内でくまなく住民登録をせよ」との勅令は、有無を言わせぬものだった（臨月のマリアも移動せざるを得ない）
イスラエルはローマ帝国の属国、圧制下にあった
住民登録の目的：納税と兵役
住民登録は現住所ではなく、本籍地に行っていかなければならなかった
- (3)ヨセフ（イエスの養父）もマリアもダビデの血筋（両方の系図で確認）
ベツレヘム（ダビデの町）が二人の本籍地
本来なら、住民登録の勅令がでなかったら、ガリラヤのナザレに留まり、そこで、出産しただろう
- (4)神の時（タイミング）は絶妙
遅すぎず、早すぎず
彼らがベツレヘムにいる間に、マリアは男子の初子を産んだ
場所は宿屋の中ではなかった
家畜小屋、飼葉桶の中に布にくるんで寝かせた

II. 救い主降誕の目撃者・救い主に会った人々（ごく少数）

- (1)ヨセフとマリア
- (2)ベツレヘムの羊飼いたち
- (3)シメオンとアンナ
- (4)東方の博士たち

Ⅲ. ベツレヘムの羊飼いたち

- (1)ダビデも若い頃、羊飼いをしていた
この羊飼いたちは、ダビデの末裔
- (2)普段は、夕方には羊たちを洞窟に入れて守る
なぜ野宿？ 夜番？
住民登録で戻ってきた人々のために家畜小屋を空けなければならなかった？
- (3)羊飼いたちは軽蔑されていた
羊を連れて他の人達の土地を通行、草を食べさせた
律法を守らない不埒な奴ら
- (4)羊飼いたちに与えられた特権
主の栄光に照らされた
救い主誕生の喜びの知らせを告げられた
布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごが主キリスト＝しるし
天の軍勢の大合唱、神賛美 「神に栄光、地に平和」
- (5)羊飼いたちの反応
早速、ベツレヘムに出発
マリアとヨセフとみどりごを捜し当てた（めどがついていた）
みどりごについて自分たちに告げられたことを知らせた
マリアはすべて心に納め、思いをめぐらす
羊飼いたちは見聞きしたことが、御使いのことばどおりであったので、神を
賛美しながら、自分の持ち場に帰り仕事を続けた

Ⅳ. 結び

- (1)メシアに会った人々の共通点は信仰である（信仰の行動）
- (2)救い主のお生まれは信じる人々にとって、比類なき喜びのしるし（世は闇を愛す）
- (3)神は時の為政者、権力者を立て、ご計画遂行に用いられる
しかし、彼らは自分で気づいていない
- (4)時満ちて、約束の時がくれば預言は成就する
今までそうであったので、今も、これからもそうである
- (5)貧しい者、弱い者、とるに足りない者を、主は取えて神の栄光の目撃者とし、
証しする務めを与えて、できるようにされる
しかも、喜んで、進んでそうする
- (6)イエス・キリストのからだには、種々雑多な血が流れていた
ありとあらゆる民族、時代を網羅して、信じる人々のあがないをなすため